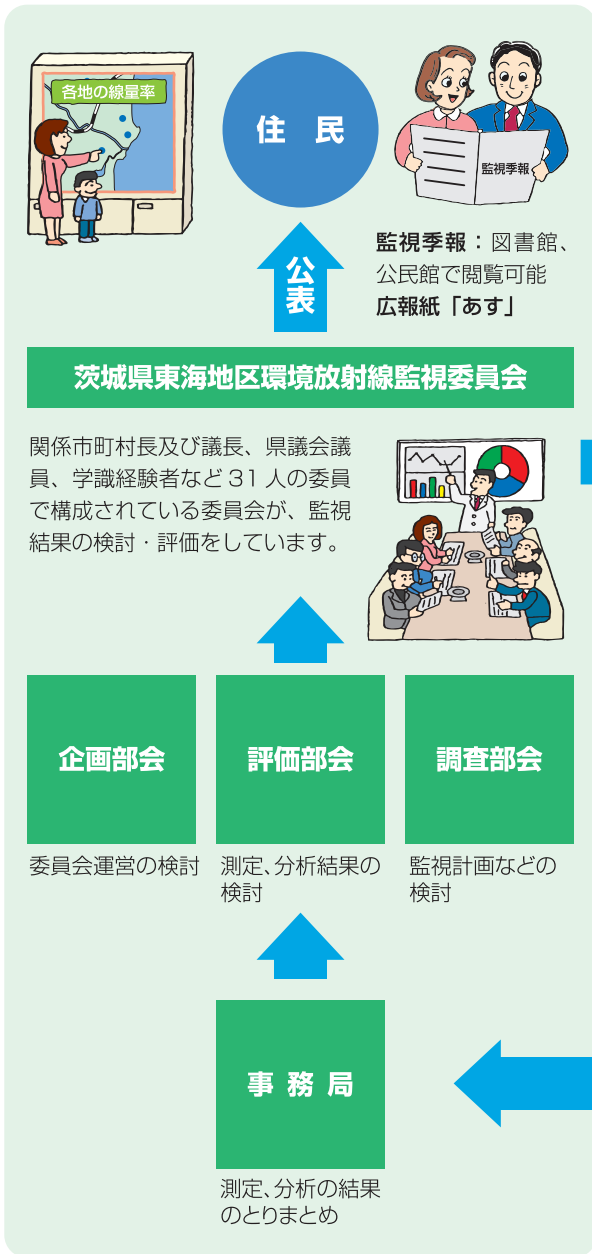


原子力施設周辺における環境

掲載内容を新しくします

東海・大洗地区の環境放射線を監視することは、原子力施設の安全性を確認するためにとても重要なことです。このため国、県、原子力事業者が分担して監視を行い、その結果を本紙で紹介してきましたが、今回から読者の皆さまにより一層理解していただけるよう内容を一新いたします。
今回は、環境放射線の監視の仕組みを紹介します。

環境放射線監視の仕組み



茨城県では、原子力施設周辺の放射線などによる影響を調べるため、空間の放射線の強さ、原子力施設からの排気・排水中の放射能濃度、水や野菜などに含まれる放射能などを測定しています。

この結果を、住民の代表や学識経験者などで構成されている評価部会で検討後、「茨城県東海地区環境放射線監視委員会」が3カ月ごとに検討評価し、安全性を確認しています。

平成17年7月6日に監視委員会（委員長角田副知事）が開催され、

- 1 短期的変動調査（H17.1～H17.3）
- 2 長期的変動調査（H16.10～H17.3）
- 3 線量の推定結果（H16.4～H17.3）

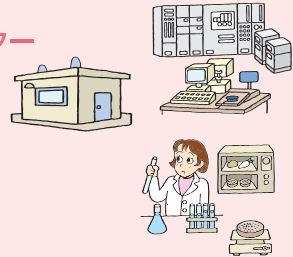
の検討・評価が行われました。その概要は、右ページのとおりです。

茨城県環境放射線監視計画

監視計画に基づいて国、県、原子力事業者が測定、分析を行っています。

茨城県環境監視センター

- ・空間放射線の常時測定
- ・環境試料の分析
- ・積算線量の測定
- ・農畜産物、海産物の分析



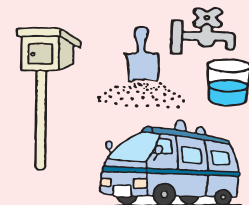
文部科学省水戸原子力事務所

- ・空間放射線の測定
- ・環境試料の分析



原子力事業所

- ・空間放射線の測定
- ・積算線量の測定
- ・排気・排水の測定
- ・環境試料の分析
- ・農畜産物、海産物の分析



環境放射線に関して読者の皆さまの質問に答えるコーナーを作りたいと考えています。
メール(kansi_asu@pref.ibaraki.lg.jp)、はがきでお寄せください。あて先は8ページの「クロスワードパズルの応募方法」にあります。

放射線の監視結果 (平成16年度)

監視委員会の評価

東海・大洗地区の環境放射線や放射性物質を測定したところ、原子力施設からの影響はなく、放射能の蓄積傾向は認められませんでした。また、1年間に受けた放射線の影響は、過去と同程度で、異常は認められませんでした。

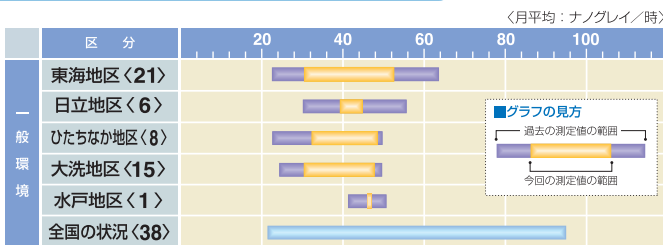
平成16年度1年間の被ばく放射線量の推定結果 (H16.4~H17.3)

- ・積算線量計による空間からの放射線量を求めると0.30ミリシーベルト以下で、ほとんどが自然由来 (A)
- ・飲食物に含まれる人工放射性核種からの放射線量を求めると0.0003ミリシーベルト以下で、ほとんどが過去の核爆発実験由来 (B)
- ・原子力施設の排気からの放射線量は0.0019ミリシーベルト以下 (C)
- ・原子力施設の排水からの放射線量は0.0028ミリシーベルト以下 (D)

これらの値は、住民の年間の被ばく放射線量として法令で定められている限度1ミリシーベルト (E)を下回っていました。



空間放射線量率 (H17.1~H17.3)



原子力施設からの排気・排水中の放射能 (H17.1~H17.3)

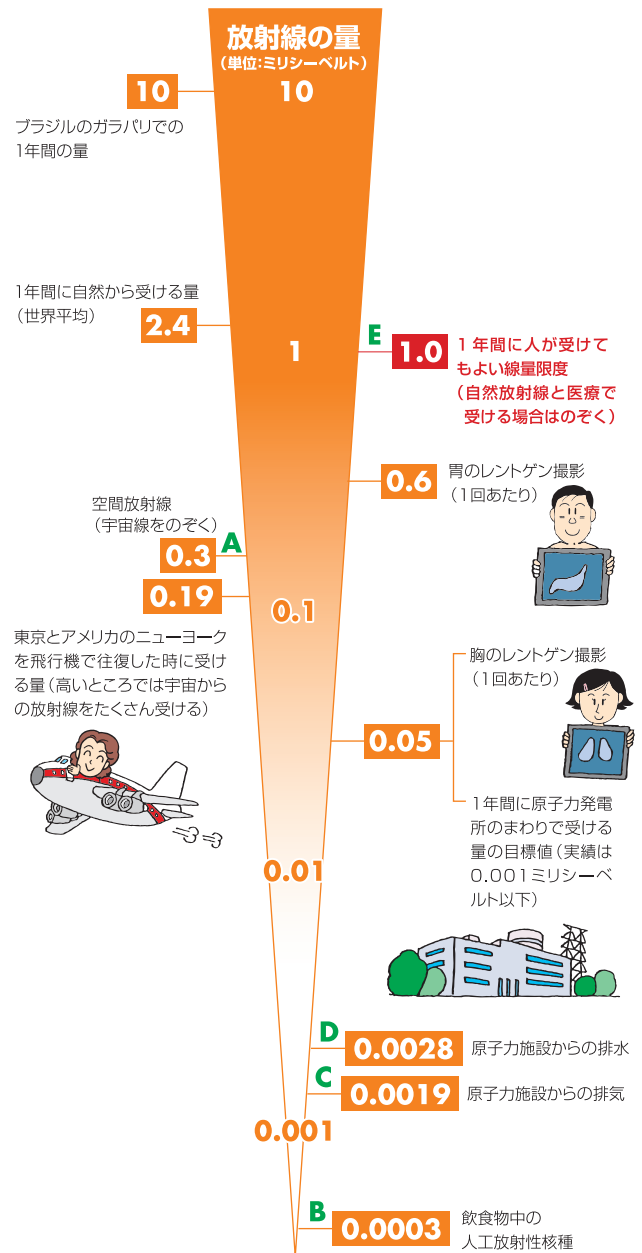
原子力施設から排出される排気・排水中の放射能を測定した結果、過去に測定された範囲内または法律で定められている基準値以下で、異常は認められませんでした。

飲食物及び環境試料中に含まれる放射性物質 (H16.4~H17.3)

精米、野菜、牛乳、飲料水、魚類、貝類、海藻類の分析結果は、過去に測定された値と同程度であり、異常は認められませんでした。空気中の埃、土壌、海水、海底土などに含まれるセシウム-137、ストロンチウム-90などの人工放射性核種の分析結果は、過去の核爆発実験などにより放出されたセシウム-137などが検出されましたが、これまでの検出された範囲内で異常は認められませんでした。

自然から受ける放射線

人工的に発生する放射線



出典：放射線医学総合研究所調べ等による

※詳細については 茨城県原子力安全対策課 までお問い合わせください。TEL.029-301-2922

最新の空間の放射線量 (ガンマ線) の測定値は、インターネットでご覧になれます。
<http://www.houshasen-pref-ibaraki.jp>